研究・調査報告書

報告書番号	担当
４８	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門

題名（原題／訳）

Association between alcohol intake and serum sex hormones and peptides differs by tamoxifen use in breast cancer survivors.

アルコール摂取と、血清性ホルモン及びペプチドとの関連は、乳癌生存者におけるタモキシフェン使用で異なる。

執筆者

Wayne S, Neuhouser ML, Ulrich CM, Koprowski C, Wiggins C, Baumgartner KB, Bernstein L, Baumgartner RN, Gilliland F, McTiernan A, Ballard-Barbash R.

掲載誌（番号又は発行年月日）

Cancer Epidemiol Biomarkers Prev 2008;17(11):3224–32

キーワード

要　旨

目的：

閉経期乳癌生存者において、アルコール摂取と、11 個のホルモン及びペプチドとの関連性を検討し、この関係がタモキシフェン使用状況で異なるかについて評価する。

方法：

自己報告によるアルコール摂取量は、3 つの西部の州の 490 人の閉経後女性を対象に、乳癌診断後平均 30 ヶ月間で、食事頻度質問紙を用いて評価された。同時に空腹時血液サンプルを採取し、エストロン、エストラジオール、遊離エストラジオール、テストステロン、遊離テストステロン、デヒドロエピアンドロステロンサルフェイト(DHEAS)、性ホルモン結合性グロブリン(SHBG)、レプチン、C-ペプチド、インスリン様増殖因子 I、(IGF-I)、および IGF 結合タンパク質-3 を測定した。 これらのホルモンとペプチドの調整平均値は、アルコール摂取量のカテゴリー化とタモキシフェン使用状況で全体を層別化して算出した。

結果：

アルコール摂取と血清ホルモン及びペプチド濃度との関連は、タモキシフェン使用で異なった。我々は、タモキシフェン使用者のみで、レプチンと SHBG 双方とアルコール摂取は、統計的に有意な逆相関を認めた。 タモキシフェン未使用女性では、アルコール摂取と DHEAS との正相関を認めたが、タモキシフェン使用者ではその関連は認めなかった。

結論：

タモキシフェン使用は、アルコール摂取と血清ホルモン及びペプチドとの関連性に影響を与える可能性が示唆された。 本研究で DHEAS 及び SHBG で認められた有意な関連性は、アルコール摂取量は乳癌予後に悪影響を与えることを明らかにしている。 これにより、閉経期乳癌生存者は、アルコールを減らすことで予後効果があることが示唆された。